

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>〈教育課程〉 学校の特色である国際理解教育をさらに深化させるための事業を推進する。また、「いのちの尊重に関する教育」、「人権教育」を推進する。</p>	<p>(1)GTEC や Vocabulary contest を通して英語力の向上を図る。 (2)武道教育を通して日本の伝統文化を学び、その精神を日常生活で活かす。 (3)姉妹校交流、国際理解講座等を通じて、国際感覚を育成する。また、国際教育をテーマに、研究推進校としての指定を受け事業を推進する。 (4)いのちを大切にすることを教育を育む「いのちの尊重に関する教育」を一層推進する。 (5)自己肯定感を基盤とし、他者を尊重し多様性を認め合う「人権教育」を推進する。</p>	<p>(1)成績の推移など他年と比較しての進捗状況。 (2)生徒アンケートの状況の分析による定着度。 (3)生徒及び保護者アンケートの分析より国際感覚の深まりの状況。 (4)ちらしや掲示などにより意識が高まったか。カウンセラー、担任等との連携できたか。ケース会議の開催状況。 (5)教科活動やホームルーム活動および集会での講話による、道徳や人権の意識の変化。</p>	<p>(1)GTEC と Vocabulary contest (年2回) を実施した。1年生よりも2年生の成績が伸びており、その効果が認められる。 (2)12月に開催された武道大会で、生徒は普段の実力を発揮し、多くの成果が得られた。 (3)6月と10月に国際理解講座、8月と12月に姉妹校交流事業を実施した。MARSの影響で蚕室高校受入は12月になり日程を短縮したが、当初の目的は達成された。国際理科講座の事前・事後学習や姉妹校訪問報告会で生徒間での成果が共有できた。 (4)ちらしや掲示物などにより生徒の意識を高めることができた。また、カウンセラーと担任等の連携を密に行うことにより、相談を円滑に進めることができた。 (5)教科活動やホームルーム活動、国際交流、分教室との交流等から他者を尊重し、多様性を認め合う人権、共生社会の意識が高まった。</p>	<p>(1)GTEC、Vocabulary contest とともに1年生と上級学年との格差が開いているので、1年生の底上げを図るのが、今後の課題である。 (2)今後も、より質を高めた武道教育の取組みを継続していく。 (3)姉妹校訪問報告会の方法を検討してきたが、今年度の内容をさらに発展させ、効率的に全校生徒に還元できるよう工夫改善を進める。 (4)いのちを大切にすることを育むための講演会の実施を検討する。 (5)今後も生徒の人権の意識が高まるような活動の企画・運営に努めていきたい。</p>	<p>(1)GTEC、ボキャブラリーコンテストなど国際思考を高める取組みはさらに継続してほしい。 (2)(3)国際理解教育や武道教育に関して、主体的に取り組む姿勢を今後とも育てて欲しい。 (2)(3)テレビ、新聞などを効果的に利用し本校の特色などの広報活動に力を入れているようである。さらに本校の特色をアピールし広報してほしい。</p>	<p>(1)GTEC、ボキャブラリーコンテストは本校の取組みとして定着している。今後もより効果的な方法を研修していく。 (3)12月に報告会を開催し姉妹校交流の成果発表会を行い、主体的な取組みを促し次につなげている。</p>
<p>〈生徒指導・支援〉 日々の高校生活での悩みや進路実現に向けて、様々な支援体制の充実を図る。生徒の規範意識の醸成に努める。</p>	<p>(1)いじめ防止基本方針を確立するとともに、生徒相談体制を構築する。 (2)外国につながる生徒の学習支援体制を充実させる。 (3)保護者対象も含め面談や説明会において、様々な情報提供を積極的に行う。 (4)教育相談コーディネーターを中心としたよりよい教育相談体制、ケース会議の充実を図る。 (5)基本的な生活習慣(挨拶励行、遅刻防止、服装・頭髪等のみだしなみ、整理整頓、環境に配慮する意識)の確立に努める。 (6)交通ルール遵守とともに、交通安全教育を推進する。</p>	<p>(1)スクールカウンセラーや保健室が有効に利用できたか。 (2)実施内容は充実したものであったか。 (3)実施回数等計画通り実施されたか。参加人数は増加したか。アンケートによる満足度が増加したか。 (4)窓口の利用状況。ケース会議の内容は適切なものであったか。 (5)生徒の学校生活の状況。生徒及び保護者アンケートの分析。 (6)生徒の学校生活の状況。</p>	<p>(1)アンケート調査、各種集会の開催やちらしの配布等、いじめ・暴力等の根絶に向けた活動を通じた実施した。 (2)1年生においては数学と英語の授業は通常クラスへ全員戻ることができた。同じ国籍の生徒で過ごす傾向が見られた。多文化教室は、生徒の参加が定着している。 (3)保護者から説明会に参加して良かったという多くのアンケート回答を得ている。 (4)スクールカウンセラーの利用者も増え、より決め細やかな指導ができている。 (5)昨年度に続き着こなしセミナーを開催、高校生らしい身だしなみを目指して取り組みを実施した。生徒に規範意識の定着を図った。 (6)全校集会や学年集会で安全教育を実施し、交通事故防止に努めた。</p>	<p>(1)いじめ早期発見のために、保護者と学校の連携の強化および、SNSによるトラブルに対応するための研修等の実施を検討する。 (2)授業の授業内容や課題、試験内容などを、共通認識をもって指導にあたる必要がある。日本語の習得のためにも日本の生徒とのコミュニケーションの機会を増やしていく。 (3)案内文の工夫をし、保護者が必要とする内容の予備調査等を行い、ニーズのある内容に精選していく。 (4)面談の時間の確保と、面談の内容の充実および希望者との連絡調整や指導の継続性をどのように維持していくかが課題である。 (5)生徒の学校生活における安全・安心を確保するために、情報収集を行い検討協議する。 (6)道路交通法が改正され、新しい自転車運転のルールを理解できていない生徒がいる。登校指導などの継続的な指導が必要である。</p>	<p>(1)いじめの陰湿化が問題になっている。いじめなどを未然に防ぐ対応をしてほしい。 (4)教育相談の充実が重要である。相談場所の設定、時間などを工夫し生徒のケアに努めてほしい。 (5)来校したとき生徒が挨拶をしっかりとしていた。清掃も綺麗になされていた。生徒の良いところを褒めてほしい。 (6)自転車事故のリスクを生徒に伝え、さらなる注意喚起をしてほしい。</p>	<p>(1)アンケートを定期的実施し、生徒からも情報が伝わるような体制を整えていきたい。 (2)在県生徒の授業の評価方法や進路支援および部活動の支援について研究を進めていく。 (5)生徒の良い点を集会などで取り上げ、生徒の向上心を促していく。 (6)交通安全活動を学校全体の取り組みとする。</p>

<p>〈学習指導・授業改善〉 基礎学力の向上と学習習慣の確立を目指す。</p>	<p>(1)確かな学力の定着に向け、校内授業研修を通して、職員の授業力の向上を図る。 (2)土曜日(ALC)や長期休業中等の補習・講習体制の充実・推進を図る。 (3)朝の学習(EBS)を定着させ、学力向上を図る。</p>	<p>(1)検討会が有意義なものとなったか。計画的に研修が行われたか。職員アンケートの分析。 (2)講座数、講座担当者数は適切であったか。開講講座数と生徒の参加人数。 (3)生徒の取り組み状況は向上しているか。学習効果は上がっているか。</p>	<p>(1)研修テーマは、前年度の取り組みを進展させる目的で「生徒の興味・関心がわく、創意工夫された授業展開」と設定した。グループ学習をしたり、生徒が生徒に説明する機会を作ったりと、生徒の活動を取り入れることで興味・関心がわくように工夫する教科が多く、授業研修を通してその手法等を学び合うことができた。 (2)ALCについては、秋から開始したが、参加人数が少なく、工夫の必要がある。今年は1年生にもALC(数学)を試験的に開講した。また、教科が得意な生徒を限定して募集して参加者の増加を図った。夏季講座参加申し込み数は1年生110名、2年生79名、3年生86名であった。2年生の人数が少ないが、部活動の合宿等との重なりがあった。 (3)取り組み状況は概ね良好であり、1校時の授業へもスムーズに移行できている。アンケート等は実施できていないが、学年単位で内容について検討を行った。</p>	<p>(1)実施方法について、次年度は必ず全員が研修に参加できるよう、代表者が授業をすることや、特別時間割を設定することを検討する。 (2)進路指導グループ、クラス担任等と連携を密にし、橋本高校での3年間の学習プラン作成を通して学校全体のモチベーションを高める等の取り組みが必要。長期休業の期間が短縮の方向にある中で、合宿等との重なりを避けるのが難しくなっている。 (3)3年生については受験を意識した内容を多くするなどモチベーションを高める工夫がさらに必要である。1、2年生は、ドリル形式を取り入れ授業内容の定着を図った。今後さらに工夫をしていく。</p>	<p>(1)教員による授業研修の成果をどのように活かすかが重要である。 (2)授業評価の集計を、生徒の土曜講習の参加意欲につなげるような工夫も必要ではないか。 (3)朝学習(EBS)の継続を期待する。</p>	<p>(1)授業研修後、教科ごとに話し合いを行い、成果を共有している。それらの有効な活用方法を検討していく。 (2)年間スケジュールの公開、校外模試との関連などを意識させ、土曜講習の参加者を増やす方を検討する。 (3)朝学習は本校の取り組みとして定着している。今後もより効果的な方法を研修していく。</p>
<p>〈キャリア教育〉 生徒の自主・自律の精神の涵養に努める。</p>	<p>(1)体育祭、文化祭等学校行事の充実を図り、生徒の自主性を育成するとともに、自己有用感、達成感を持たせ、学校生活に充実感を持たせる。 (2)安全面に配慮し、部活動の活性化を図る。また、生徒会・委員会活動の活性化を図り、その活動成果を積極的に広報する。 (3)総合的な学習の時間等によるキャリア教育を充実させ、生徒の進路意識を高める。 (4)学習到達度テストや外部の業者テストを活用し、個々の進路実現を図る。</p>	<p>(1)生徒が積極的に参加したか。充実感ももてた学校行事となったか。生徒及び保護者アンケートの分析。 (2)部活動の加入率、委員会の活動状況。学校案内の作成、ホームページの更新状況。 (3)総合的な時間の振り返りによる生徒の満足度の把握。 (4)外部模試の受験者数はどうであったか。受験結果やデータが進路指導に的確に活かされたか。</p>	<p>(1)学校行事に対し、生徒は自発的・自主的および意欲的に企画、運営に取り組み、多くの成果をあげた。 (2)学校案内に生徒の活動状況を数多く取り込み、学校説明会等で配布した。ホームページは、学校行事等のたびに更新を行った。生徒の活動状況については、学校説明会等で掲示するパネルの更新も行った。 (3)分野別説明会や進路講話の生徒の満足度は、ワークシートの記入状況やアンケートから満足いくものであった。 (4)全国模試は、3年生については任意の模試6回の案内をし、それらの参加人数が26~98名となっており、それぞれの受験方法にみあったものを受けている。しかし、11月の模試申込者は1年生40名、2年生24名と少なく、意識の高揚を図る必要がある。</p>	<p>(1)生徒の自主性がよりいっそう伸長するよう、学校行事の企画、運営の充実にも努めていく。 (2)学校案内、ホームページ、パネル等、現在のレベルでの更新、発信を継続していく。 (3)生徒の実態に合わせ、年間計画の中で進路講演会等の実施時期の見直しと内容の検討を行っていく。 (4)2年生の11月の模試については修学旅行との絡みがあったと思われる。年間の模試のスケジュールを年度初めに生徒に提示し、進路実現のため、計画的に受験するように意識させる。</p>	<p>(2)吹奏楽部の活躍など部活動の活性化が見られる。今後も活性化の取り組みを進めてほしい。 (3)(4)指定校やA0で受験の時期が早まっていることから進路決定の時期を早める必要があるのではないか。</p>	<p>(1)生徒が学校行事に積極的に参加できるような内容にしていく。今後も一層生徒の自主性を伸長させられるような学校行事の企画・精選に努める必要がある。 (2)積極的に生徒が部活動や学校説明会で活躍している。全生徒が活躍できる場をさらに持たせたい。</p>

<p>〈地域等連携〉 保護者との連携及び教育活動の公開に努める。</p>	<p>(1) P T Aと連携した自転車点検、道路交通法の周知を行い、交通安全教育を推進する。 (2)『活き活き学校生活推進運動』を充実させ、日々の生活に充実感を持たせる。 (3)土曜日に授業を公開する。 (4)学校説明会、ホームページ等を通して学校の特色を積極的に情報発信する。 (5)地元自治会等の防災訓練参加や福祉委員による福祉施設へのボランティア参加を通して、連携を深める。</p>	<p>(1)交通安全指導や自転車点検などへのP T Aの参加状況はどうであったか。保護者に安全指導についての理解が得られたか。 (2)年間の広報活動の回数。指導件数が減少したか。生徒及び保護者アンケートの状況分析。 (3)保護者の参加状況、アンケート結果の分析。 (4)学校説明会、学校見学会の参加者数。オープンスクール、部活動体験への参加者数。学校見学会への参加者数。ホームページの閲覧状況が増加したか。 (5)地域貢献活動の実施状況。福祉委員によるボランティア活動の実施状況。生徒のボランティア活動への参加状況。地域の防災訓練への生徒参加状況。警察が主催する交通安全活動への生徒の参加状況。</p>	<p>(1) P T Aに交通安全委員会が設置され、自転車点検や文化祭での体験ブースの開催等、積極的な活動が行われた。 (2)本年度も生徒、保護者、教員が一体となり「活き活き学校生活推進運動」等の広報活動、指導を実施することができた。 (3)授業参観への参加状況は、保護者、中学生等合計179人(アンケート回収数)であり、1年保護者と中学生が多かった。また、アンケート結果は、学習環境、生徒の取組み、教員の取組みとすべての項目について、「良かった」が圧倒的に多かった。 (4)学校説明会への参加者数(アンケート回収数)は、第1回1104人、第2回447人、第3回249人学校見学会は170人と多数の参加が得られた。オープンスクールへの参加者は373人、部活動体験への参加者は67人と多数の参加が得られた。ホームページの更新を頻繁に行った。 (5)1学期に3学年、2学期に1学年、3学期に2学年と地域の清掃活動を実施し、全生徒が参加した。相模原市の七夕祭りや地域の防災訓練に、吹奏楽部が交通安全パレードに参加した。各種ボランティア募集のポスター掲示など情報提供を積極的に行った。地域の自治会の防災訓練に参加し、地域からの期待を得ている。生徒会が中心となり、警察と連携して交通安全指導を実施した。</p>	<p>(1)交通安全委員会を中心としたP T Aの活動の継続を継続する。生徒だけでなく、多くの生徒が参加できる交通安全活動を検討協議する。 (2)広報活動、指導方法の内容を検討協議し、いっそう充実したものにさせる。 (3)授業参観については、来校者数が少ない状況ではあるが、アンケート結果は非常に良好である。対外的なアピールに加え、今後も校内での日々の教育活動や生活指導の充実継続して取り組んでいく。 (4)学校説明会を中心とした情報公開は十分に機能していると考えられる。国際理解教育の推進、武道教育といった本校の特色は対外的にも十分に認識されており、今後は、今年度初めて実施した部活動体験の定着を図るなどの必要がある。 (5)ボランティア活動を通しての地域連携は概ね達成できていると考えられる。今年度は、課題であった地域の防災訓練に参加することができ、今後も継続して地域活動に参加していくことが必要と考える。</p>	<p>(1)交通安全の大切さを生徒に伝え、さらなる注意喚起をしてほしい。 (3)(4)地域との交流が進んでいる。土曜日の授業や文化祭など、生徒との交流および学校公開をさらに積極的に進めてほしい。 (5)地域の防災訓練への生徒参加や帰宅困難者問題について地域自治体と協力していくべきである。敬老会をはじめとする生徒の地域へのボランティア参加などたいへん好感が持てる。今後も継続してほしい。</p>	<p>(1)継続した指導を行い、交通安全活動を学校全体の取り組みとする。 (3)地域に開かれた学校としてその役割が果たせるよう、多くの教育活動の公開を進めていく。 (4)保健指導と手話教室の様子および吹奏楽部の活躍が神奈川県新聞に掲載された。今後も継続した広報活動の充実を努めていく。 (5)地域の防災訓練に多くの生徒が参加し生徒の意識も変化している。防災訓練における生徒の役割や内容などの情報入手し、さらに生徒が積極的に参加しやすいものになりたい。ボランティア参加について、委員会や部活動を中心に今後も継続をさせていく。</p>
<p>〈学校運営・学校管理〉 事故・不祥事防止と危機管理意識を高める。</p>	<p>(1)事故防止会議等による職員の意識啓発を継続的に行うと共に、風通しのよい職場づくりを行う。 (2)震災等緊急時の対応についてさらなる検討を行い、生徒の安全確保の構築に努める</p>	<p>・教職員の事故不祥事に対する考えが深まったか。 ・参加状況はどうであったか。地域と十分な連携がとれたか。 ・安全確保のための行動を理解しているか。</p>	<p>(1)事故不祥事防止会議を原則月1回開催し、職員の意識の啓発に努めた。外部講師による事故防止研修会を11月に実施した。 (2)防災委員会の生徒が、校内および地域の防災訓練で活躍した。また、学校周辺の防災マップを作成し、各ホームルームに貼ってその周知を図った。地域の自治会の防災訓練に参加し、地域からの期待を得ることができた。</p>	<p>(1)事故不祥事防止については会議や研修会の開催だけでなく、日常的な職員間での声かけが欠かせない。今後も風通しの良い職場環境作りに取り組んでいく。 (2)一人ひとりが常に防災を意識するような取り組みが必要である。地域との連携を深め、防災対策にさらに取り組んでいく。</p>	<p>(2)地域の防災訓練への生徒参加や帰宅困難者問題について地域自治体と協力してほしい。様々な災害を想定し、その対策を生徒に考えさせる必要がある。</p>	<p>(1)校内研修を組織的に行い、教育公務員としての自覚を高めて事故・不祥事防止に努めていく。 (2)緊急時を想定した避難訓練や帰着地別集団下校訓練を継続する。</p>